

防災力向上に向けた地域イベントの分析

学生代表：宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科

4年 小田部奎介

指導教員：宇都宮大学地域デザイン科学部

准教授 近藤伸也

地域パートナー：

さくら市総務課 様

目次

1. 研究背景
2. 研究目的
3. 研究方法
4. 研究対象
5. ヒアリング調査
6. イベントの実施
7. アンケート調査・分析
8. 考察と今後の展望
9. まとめ
10. 参考文献

1. 研究背景

○災害が多い日本において防災訓練をはじめ、防災・減災活動の実施が必要とされている。

○参加者が少ないことなどから防災・減災に特化した地域活動は上手いいかない部分があり、課題としても挙げられている⁽¹⁾。

○防災に関わる活動のみを抽出して防災活動を続けていくことは困難である。

→現代における生活習慣，社会構造を踏まえた上で，防災・減災活動への向き合い方の工夫が求められる。

1. 研究背景

○《生活防災》の考え⁽²⁾

生活総体(まるごとの生活)に根差した防災実践のことである。

“防災”を他から独立した活動と捉えず，日常生活を構成する様々な活動と共に生活全体に混在するものと捉える。⁽³⁾

防災力が発生する活動：災害が起きた時に使えるとされている活動や災害時のために行っておいた方が良くとされる活動とする。

防災力：災害の発生を予防する・災害時の被害を軽減する、普段の生活からも発生するであろう力。

1. 研究背景

○地域イベントに注目する.

- ・日常的に行われ, 多くの分野・コミュニティが集合し, その土地に住む地域住民主体で実行される地域イベントに注目する.

- ・地域で行われるイベントには多くの機能・効果が内在する⁽⁴⁾ことが既往研究で明らかになっているため, 防災の観点でも様々な機能や効果が内在している可能性があると考えられる.

2. 研究目的

地域イベントは地域の防災力向上にどのように作用しているのかを調査する.

地域イベントの防災の観点から見た重要性や今後の地域イベントの在り方について提案することを目的とする.

3. 研究方法

- 要素を満たしている地域イベントの実行委員として地域イベントに参加・実施して、どのようなイベントであるのか分析する.
- ヒアリング調査を通じて対象のイベントがどのようなイベントなのか特徴を分析し、実施する.
- アンケート調査を用いて、どのような地域イベントなのかより詳しく分析し、どのような防災力を有しているのか分析する.

4. 研究対象地域



・栃木県さくら市

平成17年3月に隣接していた氏家町
と喜連川町が合併されて誕生した市

4. 研究対象イベント



“ゆめ！さくら博 & さくら市福祉まつり”

- ・「つなげよう地域のわ！広げよう学びのわ」がテーマの地域イベント。
- ・2024年10月19,20日にさくら市氏家体育館，氏家公民館で行われた。
- ・過去に行われていた「ゆめ！さくら博」と「さくら市福祉まつり」が合同開催される地域イベント。

5. ヒアリング調査

①第1回ヒアリング調査

【日付】 2024年8月27日(火)11:00～12:00

【場所】 さくら市社会福祉協議会

【ヒアリング先】 仲根信行さん，君嶋福芳さん

【出席者(敬称略)】 さくら市社会福祉協議会事務局長(仲根信行)，理事(君嶋福芳)，宇都宮大学(近藤伸也，小田部奎介)（合計：4名）

②第2回ヒアリング調査

【日付】 2024年8月30日(金)10:00～11:00

【場所】 さくら市役所喜連川庁舎

【ヒアリング先】 さくら市教育委員会事務局生涯学習課 高瀬亮さん

【出席者(敬称略)】 さくら市教育委員会事務局 生涯学習課(高瀬亮)，宇都宮大学(近藤伸也，土崎雄祐，小田部奎介)（合計：計4名）

対象イベントの運営体制について明らかにするため以前行われていた「ゆめ！さくら博」と「さくら市福祉まつり」の担当者にヒアリング調査を行った。

5. ヒアリング調査

・実行委員会の編成

→このイベントにおいて出展するのは団体もしくは個人であり、それぞれ出展者は実行委員会とみなされる。

・各出展内容の詳細

→2日間で128団体(個人)がそれぞれブースに分かれて出展をする。そのうち事前に提出された61団体の出展団体、出展内容をヒアリング。

・さくら博が生まれた経緯

- ①様々な枠を超えた取り組みの必要性
②同時期に行われる類似したイベントに対する声
③市制20周年の節目に向けた意識

5. ヒアリング調査

4つの機能	枠組み	事前調べ
社会基盤系	インフラ	16
	ライフライン	
	行政	
生活系	衣	2
	食	
	住	
サービス系	医	10
	職	
	習	
地域資源系	趣味	31
	文化	
	自然	

・ 出展内容の評価

ヒアリング調査で聞いた各出展の内容を太田らの研究の〈生活の枠組みで想定される自立性の評価指標〉⁽⁵⁾⁽⁶⁾を用いて分類.

→ 生活系の出展数が少ない

総合的な地域イベントであるため、〈生活系〉の出展内容を企画.

「防災用品体験」の内容を段ボールベッド体験(住)、簡易トイレ体験(住)、防災食の試食(食)に決定し、10/20に出展者として参加する

6. イベントの実施



6. イベントの実施



6. イベントの実施 当日の様子

- 出展者同士で話す姿も見受けられた
- 準備・片付けを業者さんだけではなく、自主的に行っている姿も見られた
- 中学生ボランティアの活躍
- 様々な人が集合する

7. アンケート調査

アンケート①

調査対象：ブース来場者

調査期間：10/19,20

調査内容：回答者の属性，回答者が出展ブースで体験したものに対して体験前と体験後の意識差

調査目的：出展が来客者に与える影響を明らかにする.

アンケート②

調査対象：実行委員会(出展者)

調査期間：10/19,20

調査内容：出展内容

調査目的：出展内容を評価指標を用いて定量的に分類する

7. アンケート結果の分析

(1)段ボールベッドの場合

実測値			
	好影響	好影響ではない	合計
事前の知識あり	4	33	37
事前の知識なし	3	0	3
合計	7	33	40
期待値			
	好影響	好影響ではない	合計
事前の知識あり	6.475	30.525	37
事前の知識なし	0.525	2.475	3
合計	7	33	40
確率	0.0000922240649374403000		
0.946042471	0.200675676	11.66785714	2.475
カイ二乗値	15.28957529		
自由度	1		
有意水準	3.841		

カイ二乗検定

- ・値が連続していない変数同士の関連を調べるための検定方法
- ・今回『事前の知識の有無』と『好影響を与えるかどうか』で検定を行う
- ・自由度1有意水準0.05のカイ二乗分布の3.841と計算で求めたカイ二乗値15.2895...で比較してカイ二乗値の方が大きい

カイ二乗分析より

→ブースでの体験が来場者に好影響を与えるかどうかには事前の知識の有無が関係していることが分かる

7. アンケート調査 結果②出展者

4つの機能	枠組み	イベント前調べ	イベント当日
社会基盤系	インフラ	16	26
	ライフライン		
	行政		
生活系	衣	2	32
	食		
	住		
サービス系	医	10	35
	職		
	習		
地域資源系	趣味	31	42
	文化		
	自然		
内容不明		2	3
合計		61	135(128団体)

8. 考察・現時点での今後の展望

○地域イベント自体に防災の要素があると考えられる。

○様々な分野が入っている上、多くの来場者が訪れる地域イベントであるため、それを生かした、より繋がりが増えるようなイベントであると防災力も向上するのではないかと考える。

○新たな関係人口を増やすために、このイベントにない出展内容の要素だった出展を増やすことや来場者を増やすことを検討すべきだと考える。

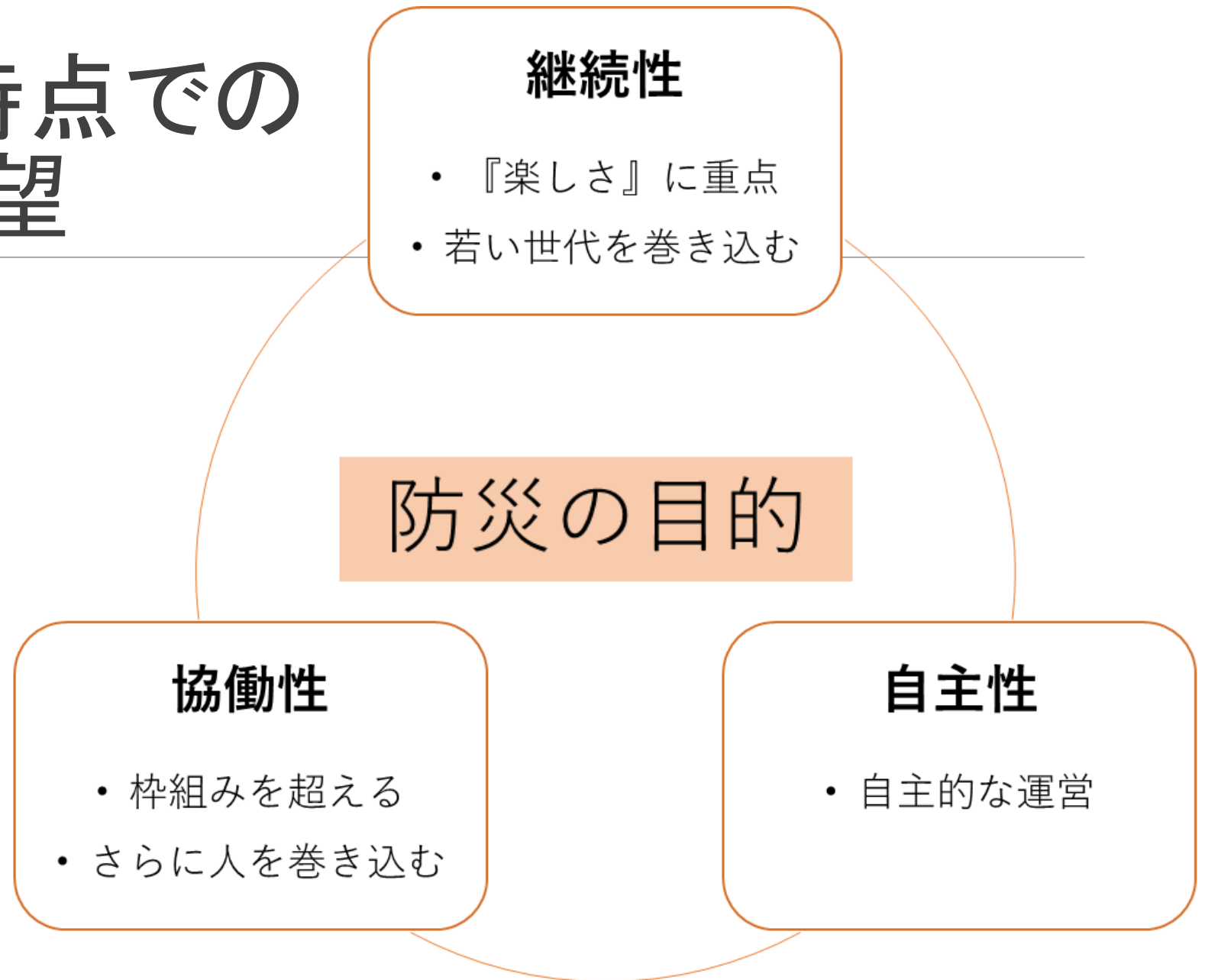
○様々な機能や防災の要素が内在する地域イベントをこれから続けていくことも考えていかなければならない。

8. 考察・現時点での今後の展望

地域イベントでの防災力を向上させるには

- ① **地域イベントに防災の要素がある**ことをイベント運営者たちが共通意識として持つ。(自主性)
- ② **防災の要素を促進できるような取り組み**をする。(協働性)
- ③ **地域イベントが今後も続くようにする**。(継続性)

8. 考察・現時点での 今後の展望



9. まとめ

本研究では、地域イベントとはどのようなものか、効果、機能の研究をして、どのような防災力を持っているのかに注目した。対象イベント担当者へのヒアリング調査ではこのイベントがどのようにして運営されるのかについてヒアリングした。その結果、対象イベントへの参加の仕方を決定し、実際に実行委員として対象イベントに参加した。

イベントの様子、アンケートの回答、また、様々な事例を基に対象イベントと地域イベントの今後の在り方について提案した。

本研究の研究対象は1つのイベントである。今後は、より様々なコミュニティなどに注目した、一見防災ではない活動の防災力について定量的に計測していきたい。

10. 参考文献

- (1) K. Kitagawa, Exploring 'everyday-life preparedness': Three case studies from Japan, International Journal of Disaster Risk Reduction, Vol.34, pp265-274, 2019
- (2) 矢守克也: 増補〈生活防災〉のすすめ 東日本大震災と日本社会, ナカニシヤ出版, 2011
- (3) 矢守克也: 防災人間科学, 東京大学出版会, 2009
- (4) 中川豪: 地域イベント開催の意義について—消費行動と自治体の役割—, 都市とガバナンス/日本都市センター編 Vol39, pp84-91, 日本都市センター2023
- (5) 太田知良, 近藤伸也: 地方イベントの実施状況から探る地域継続のための課題, 土木学会論文集F6(安全問題), 70巻2号 pp155-160, 2014
- (6) 太田知良, 片家康裕, 坂口歩, 中瀬元浩, 澤田雅浩, 近藤伸也, 福留邦洋, 渡辺千明: 紀伊半島における中山間地集落の孤立化と自立性に着目した防災力評価手法の検討—東海・東南海・南海地震への戦略的な防災対策の一環として—, 総合論文誌(6), pp117-121, 2008-02-20, 一般社団法人日本建築学会